

検査Ⅰ 解答・解説

〔問題１〕 カワセミは清流の鳥であるという思い込みがあるため、東京に生息しているカワセミに気づくことができなかったということ。（五十七字）

解説 筆者の「環世界」に「東京のカワセミが暮らしていない」という比喩表現の内容を説明する問題。まず「環世界」については、「後天的に獲得した言語」と知識と経験と好みがつくり出す大脳皮質がつくった『文化的な環世界』』という定義が前提にあることを踏まえる。この定義の具体例が述べられた後の部分、「自分の環世界に存在しないものを、人は気づくことができない。私の場合、2021年の春まで『東京のカワセミ』が自分の環世界に存在しなかったと述べている点をおさえる。さらにその理由としてカワセミが清流の鳥であり、東京にいるはずがないという「思い込み」をしていた、と述べている。この二つの内容を踏まえて、解答する。

〔問題２〕 お互いの後天的な「環世界」が異なっている（から。）

解説 二つの文章の共通点を探す問題。傍線部の直後、読書についての討議に関して、評論（Ⅱ物事のよしあし・優劣・価値などについて論ずること）ではない、とまとめた上で、筆者が読書に求めていることは「理論武装を取った自由さ」と述べている。この点をインタビューが、「成り立ちにおける自由さ」とまとめている。またこの話は、筆者が自身の著作を通して小説を読むときの「複数の視点を示している」という前提を踏まえることも重要である。このように、「物の見方」（Ⅱ「環世界」）は人さまざまであり、その人がどういった経験や知識を得て「成り立」ってきたか（Ⅱ「後天的」）によって見方は変わってくるということをおさえて、**文章１**から解答部分を探していく。また、抜き出し部分の「後天的」は、注がっている言葉であるため、注から言葉の意味を理解した上で問題を解くことも重要である。

〔問題３〕 テーマと条件を踏まえて解答する作文問題

解説 条件①である **文章１・文章２**の共通する内容は、人はそれまでにどのような経験や知識を得たかによって物の見方が変わり、そのため同じものを見ても意見や感じ方が異なる、という点である。この点を踏まえて、学校生活をともに過ごす仲間と価値観や認識の違いを尊重しお互いを認め合い、高め合うような姿勢で過していくことが望ましい。条件②の段落分けについては、まとめや理由などの内容に沿って分けていくかが重要である。